

平和富士



平成19年1月15日 学校報11号

二河白道

平和中学校長 近藤 良一

新年あけましておめでとうございます。

穏やかな正月でしたが、ゆっくりお休みになれましたでしょうか。楽しい時間というのはあっという間に過ぎていくもので、爆弾低気圧が去った今日からいよいよ学校が始まりました。

さて、年末年始は一年の総括や、これからの未来や人間の生き方についての特集番組がいくつもありました。正月という節目に過去を振り返り、これからの未来のことを考えるという日本の文化は改めていいものだなと思いながら見ていましたが、特に今年から団塊の世代の退職が始まるからでしょうか、この世代向けの番組が多くありました。そういえば、本屋や図書館にはこの世代向けのコーナーが設けられ、人で溢れていました。

私は団塊の世代のすぐ下にあたりますので、この世代の影響をかなり受けています。

この世代が青春時代だった70年代、漫画アクションに「子連れ狼」という劇画が6年間に渡って連載されました。映画化もされましたし、TVドラマ化もされました。壮大な物語で、連載最終回の掲載時には歴史雑誌にもその記事が載ったほどです。柳生一族の謀略により妻と公儀介錯人の地位を失い、その柳生への復讐を誓い、遺された一子大五郎と共に刺客道の旅に出た挿一刃の物語です。優れた時代考証と共に、武士道や仏教の教えなどが随所に散りばめられており、組織に生きることの誇りやはかなさ、下層に生きる人々の意地などが丹念に描かれていて、私は何回も読み返しました。

表題の二河白道は「子連れ狼」第12話のタイトルです。

二河白道は（にせんびやくどう）と振り仮名が打たれていました。この言葉は長く私の心の中に住み続け、折に触れて図書館などで調べてみましたが、行き当たることが出来ませんでした。過日、僧侶でもある友人の教師から、この言葉は（にがびやくどう）と読み、浄土教の教えで鎌倉時代には『二河白道図』として絵画化され、民衆の間に普及したということを知られました。

二河とは人の道を歩もうする者の前に立ちはだかる河で、一方はあきらめが渦巻く冷たい水の河で、もう一方は放蕩をむさぼれと誘惑する猛火の河です。この二つの河幅はとても広く、しかも底なしで、両方ともはまり込んだら最後二度と抜け出すことができない河です。

二つの河の真中には一本の白い細道がついていて、この二つの河を通り過すにはこの白い細道を通るしかありません。しかし、この細道には水が押し寄せ、火の粉がふりかかり、歩む者をその河に引きずり込もうとします。周りを見回しても助けてくれそうな人は誰一人いません。どうしようと途方に暮れていると、東の岸から「ただ一つ心に決めてこの道を尋ねて行け」という声が聞こえてきました。また、西の岸からは、「汝一心に正念にして直ちに來れ、我よく汝を護らん。すべて水火の難に墮せんことを畏れざれ」という声が聞こえてきました。

そこで、心を決めてこの道を踏み出したとき、旅人がひとりであることを見て火の河から、「こ



んな道に行くことはない。ここで楽しめるだけ楽しんでいけばいいぞ」と、いつも楽しいときだけ集まってくる人々の声が聞こえてきました。一方、水の河からは、「お前に力はないから失敗するに決まっている。行くだけ無駄だ」と、いつも簡単にあきらめ物陰に隠れている人々の声が聞こえてきました。

それでも、都合の良いときだけ集まってくる人の声や物陰に隠れている人の声を振り払い、一歩二歩と歩いて行きました。

自分にとって都合の良いことではなく、自分にとって都合の悪いこともたくさんある「真実」に導かれて、この道を渡ったとき、そこには、たくさんの本当の仲間が自分を待っていてくれました。良いときも悪いときも、一緒に喜び一緒に悲しんでくれる本当の仲間の輪に入ることができました。

これは決して古い話ではありません。今を旅すること、奥の細道を歩いていくこと、日常生活を過ごすこと、その一刻一刻が二河白道を歩むことではないかと思えます。

今の時代、二河は子どもたちが一人歩きを始める思春期から、成人して社会人になるまでの間に大きく横たわっていると思えます。このところの少年犯罪の著しい増加やニートの増加は、若者の多くが二河に落ち込んでいる結果のように思えます。

二河の火や水は、我々の煩惱を象徴しています。火はカッ

と燃え盛る怒りや嫉妬、欲望で、水は諦めを表しています。いくらでも飲み込み、浸りたいものです。

見るもの、聞くもの、触れるものによって、苦しみ、悩み、惑わされているのが私たちの人生です。ほかの人の持っているものを見て、自分も欲しいと思い、思うように手に入らないとねたんだりひがんだりして苦しみます。聞くことによって、腹を立てたり嫉妬したり、又触れるものによって、いろいろの惑いを生じるのが私たち人間ではないでしょうか。

白道は一人でしか渡れない道です。油断をするとこの危険な河へと巻き込まれてしまいます。仏の加護があるかもしれませんが、この道を渡っていく子どもを親や教師は兩岸から見守るしかありません。

二河を目前に控えた親や教師がしておくことは、「どんなことがあっても、子どもを見捨てることはない。私たちが護り通しますから一筋にこの道を生きなさい。」という声を信じ、欲望や諦めの誘惑を寄せ付けずに歩み続ける、強い心を育てておくことなのだろうと思えます。



1 月行事予定

日	曜	部	下校	行事予定	23	火	×	16:35	
15	月		16:35	3 年 期 末 下 校 1 3 : 3 5 部 活 動 の 日 A E T	24	水	×	15:35	
16	火	×	16:35	3 年 生 期 末 2 日 目	25	木		16:35	生徒集会
17	水	×	16:00	学 力 調 査 1 . 2 年 学 力 テ ス ト	26	金	×	16:35	新 入 生 保 護 者 説 明 会 1 3 : 3 0
18	木		16:35	議 会 ・ 委 員 会	27	土			中 京 高 校 推 薦 入 試 英 検
19	金	×	16:35		28	日			
20	土			多 治 見 西 ・ 帝 京 推 薦 入 試	29	月		16:35	部 活 動 の 日
21	日				30	火	×	16:35	
22	月		16:35	部 活 動 の 日	31	水	×	15:35	学 校 連 絡 メ ー ル 説 明 会 合 唱 交 流 会

学校連絡メール説明会: 多治見市では、小中学校の保護者向けに携帯メールで緊急情報等を発信するシステムを稼働することになりました。後日登録方法を記した案内を配布します。その案内を参考に操作頂ければ登録できますが、システム及び登録方法に関する説明会を行います。後日ご案内しますので希望者はご参加下さい。